

第 10 回

さくらピア

避難所体験

備える防災 育てる防災



2018/9/29

実施報告書

①避難・報告訓練	…	114名
②講演&初期消火訓練	…	126名
計		240名

主催：豊橋障害者(児)団体連合協議会

共催：豊橋市

後援：豊橋市社会福祉協議会、豊橋善意銀行、豊橋市教育委員会、東愛知新聞社、東海日日新聞社、中日新聞社、[ティーズ]、エフエム豊橋

参加者内訳

参加総数は240名(前年286名)で、うち障害当事者は81名(前82名)、障害者家族は33名(前31名)、一般参加者は126名(前173名)だった。

内容別では、①避難・報告訓練120名(前年126名)、②講演・初期消火訓練120名(前年は講演・避難所レイアウト実習119名)。前年は3つ目の企画③防活ミーティング(41名)があったことで参加総数では減少したが、台風も接近していた状況下での開催にも関わらず無事に終了できたことは収穫であった。

例年同様、市外(高浜市・東浦町・田原市など)からの参加も多数あり、特に、障害者の避難訓練を計画中の市職員や障害者団体などからの参加で大いに活気づいた。ご多忙の中、民生委員(8名)の参加もいただいた。特筆すべきは、放課後等デイサービスの2事業所からの申込みがあり、当避難所体験を事業所でも実践的に活用しようとの熱意が感じられた。この動きが家庭や事業所内で完結せず、地域の避難訓練などの参加へつながっていくことを願っている。

(単位:人)

障害等種別		①避難・報告訓練	②講演・初期消火訓練	合計
障害者・家族(当事者)	身体	14	18	32
	うち中学生以下	6	0	6
	内部	0	0	0
	聴覚	7	8	15
	視覚	0	2	2
	その他障害	1	1	2
	うち中学生以下	1	1	2
	精神	7	8	15
	うち中学生以下	2	0	2
	知的	9	6	15
	うち中学生以下	5	1	6
	発達	0	0	0
	家族	10	23	33
	うち中学生以下	0	1	1
	小計	48	66	114
	うち中学生以下	14	3	17
一般	介助	9	0	9
	ボラ	19	13	32
	議員	1	2	3
	民生	2	6	8
	社協	2	1	3
	市職員	12	5	17
	その他	20	20	40
	うち中学生以下	3	0	3
	さくらピア	7	7	14
	小計	72	54	126
	うち中学生以下	3	0	3
合計		120	120	240
うち中学生以下		17	3	20

スケジュール

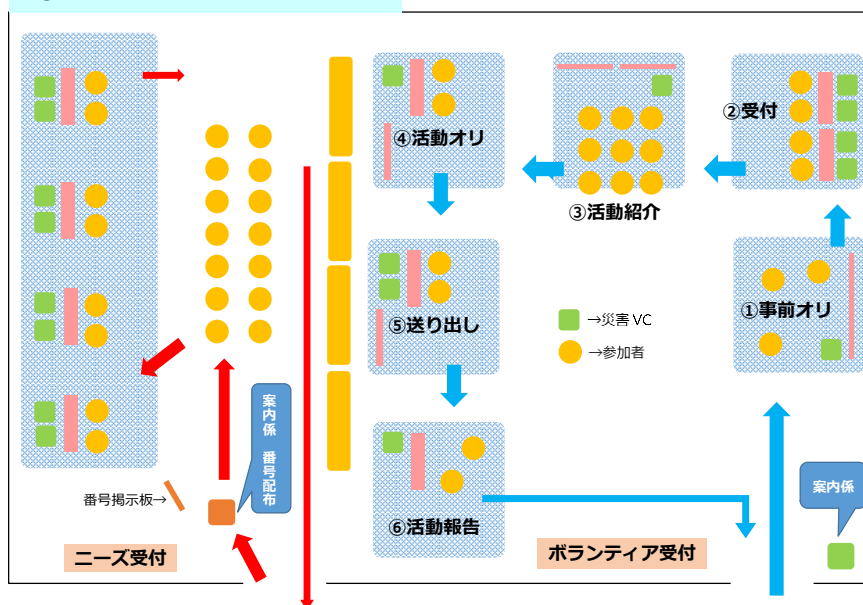
①避難・報告訓練

【@さくらピア体育館】

※雨天のため、あイトピアより会場変更

- ・受付、開会
- ・2階避難所など確認
- ・報告訓練
 - ニーズ受付
 - ボランティア受付
- ・アンケート記入、解散
- ・非常食試食

①避難報告訓練レイアウト図

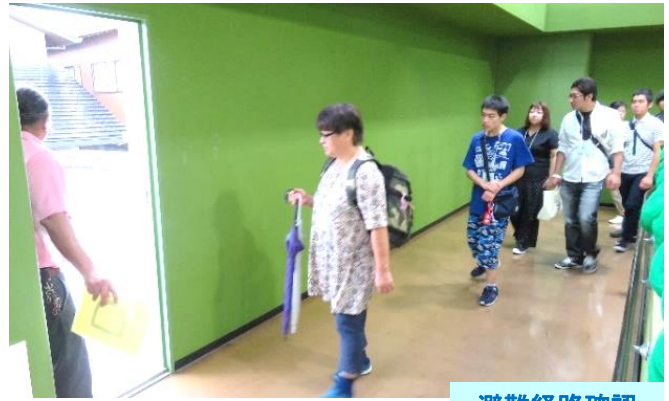


②講演・初期消火訓練【@3階大会議室、1階ロビー】

- ・講演「災害時に役立つ薬の話」(講師：豊橋市薬剤師会防災担当理事 中神由香氏)
- ・避難訓練と初期消火訓練
- ・アンケート記入、解散

【第1部】 ハートを伝える 避難・報告訓練

豊橋市と災害ボランティアコーディネーター連絡会との協働企画とした。台風24号の接近により29日午前中から雨の予報だったため、避難訓練として当初予定していたあいトピアへの移動は中止し、さくらピア体育館で開催した。



避難経路確認



ニーズ受付

昨年同様、受付で社会福祉協議会の福祉センター地域区分5グループに分けた。混乱を避けるため1グループ(20~30人)ずつエレベーターで2階に上がり、体育館ランニングコースを歩きながらベランダの待避所、段ボールベッド、備蓄の毛布を紹介した。その後、体育館に入り、まず障害のある方は、被災者役としてニーズ受付に、障害のない参加者は、かけつけた災害ボランティア役としてボランティア受付に行った。

ニーズ受付は、災害VC連絡会の聞き取り担当者が4テーブルに分かれ2人一組で対応。今年は、入り口で番号札を渡し、現在受付中の番号を表示したことで、待ち時間にストレスを感じることが少なかった。コミュニケーションに苦

労している姿も見受けられたが、その戸惑いを体験するのも開催目的のひとつと考える。



ボランティア受付



活動紹介

ボランティア受付は、事前オリエンテーション、ボランティア登録、活動の選択、実施のしくみを体験した。障害当事者もできることはあるからとボランティア側の受付をした人もいた。少し時間はかかるが、ボランティア活動を始める前の手順がよくわかった。去年の反省をもとに順路をわかりやすく設定したことも効果的だった。

活動オリエンテーション



展示

①常設の1回～9回までの報告集(A3判)を見やすい机に置き、休憩時間に自由にみられるようにした。市外から視察目的で参加した行政職員や障害者団体、自治会役員の方が熱心に見ていた。

防災マンガ



100円ショップで非常持出袋



②100円ショップで買える防災グッズ
障害者や高齢者は、普段ゆっくり100円ショップなどをめぐる機会が少ないので、身近な所で手に入る防災グッズを展示。非常持出袋について考えるきっかけになった。

例) 携帯トイレ、使い捨て下着
大人用体拭き、ランタン、ライト
軍手、リュック、ポンチョ など

③非常食試食

今回、防災危機管理課からいただいた備蓄品は、初めてラーメンだった。1日参加の人達が2階で試食。お湯の線が分かりにくいことや小さなフォークでは高齢者や障害者は食べにくいことを実感した。



【第2部】 備えを学ぶ 講演 & 初期消火訓練

講演会「災害時に役立つ薬の話」

豊橋市薬剤師会防災担当理事

中神由香 氏



ポイント

- ①かかりつけ薬剤師を持ちましょう。
- ②災害時には「お薬手帳」を持って避難。
- ③普段から自分の情報を書いておく。
- ④薬の写真を撮っておく。
- ⑤避難所では災害用カルテをもらいましょう。
避難所に医師は常駐できず回診ですが、
地域の薬剤師が行く予定です。
- ⑥薬の保管は室温で大丈夫。

かかりつけ
薬剤師は
どうやって
決めるの？

いつもの薬だけもらい
たいけど診察が必要と
言われます

特殊な薬の予備は
どれくらい？

一日一回の薬は
いつ飲んでも
いいですか？



避難訓練と初期消火訓練

雨のため室内階段を利用。2階からの火災で煙が充満していた場合、3階避難所で待機する選択もあることを説明し、中階段でロビーへ集合。その後、消火訓練をした。

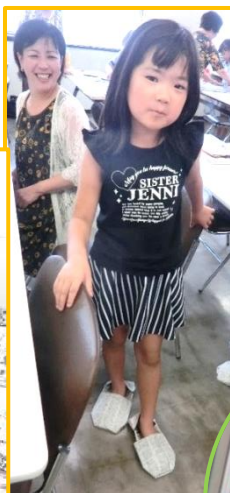


◆台風24号のこと◆

避難所体験翌日の9月30日、伊勢湾台風並みだという台風24号が豊橋にも大きな被害をもたらしました。30日夜から10月1日にかけて豊橋市全世帯の8割が停電しました。高層階に住む人は、停電すると水もくみ上げられない仕組みを実感し、医療的ケアで電源が生死にかかわる人、人工透析の人、近所の避難所がバリアフリーでないことにがっかりした人、信号の消えた道を恐々と運転した人、耳が聞こえないので車の渋滞情報がわからず何時間もかかった人、作業所が急に休みになり生活のリズムが崩れて不安になった人、みんな困ったことを翌日友人知人と報告しあったと思います。

こんな時こそ困ったこと、不安なことは伝えましょう。家族へ、友人へ、地域へ、行政へ。そして備えましょう。自分も、家族も、地域も、障害のある人もない人も。

夏休み親子防災教室 2016・2017・2018



防災頭巾を作ろう

座布団(100円)2枚を
縫い合せます



防災おりがみ

新聞紙でスリッパと座布団を作りました



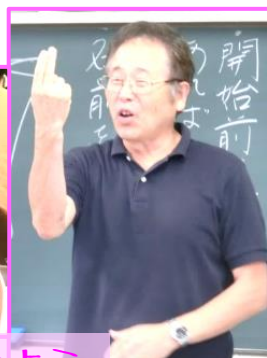
見えないって
どんなこと?



ガイドヘルプ体験



<学校>



防災手話を覚えよう



STT(サウンドテーブル
テニス)体験



点字絵本の読み聞かせ



<晴れ>

<雨>

知的障害について知ろう

だってさ...
急にわかんないことされてもさ...



こまっちゃうよ~

みんなちがってみんないい



夏休みに親子で福祉と防災を
学ぶ企画です。
障害のある子もない子も一緒
にできます。



防災タイム 2016・2017・2018

9月の防災月間に1日3回15分避難経路の確認を実施



2階 体育館側待避所



古いモニターテレビ



非常階段



3階 待避所

訓練放送の後、各グループで避難経路を確認



ボッチャのグループ 1階体育館から公園へ



フラダンスの練習中
1階非常口から避難



夜の手話サークル

★防災タイムの参加者は

2016年 48グループ688人

2017年 57グループ505人

2018年 67グループ677人 でした。

「扉が重くて開けられない」「夜の階段は怖かった」等
皆さんからいろいろな指摘をいただきました。
職員も勉強しながら、今後の防災対策につなげます。
他の施設でも防災タイムができるといいですね。



イーバックチェア

＜避難・報告訓練 アンケートより＞



- ◇ ボランティア受付ではいろいろな仕事があって面白かった。
- ◇ ボランティアをしたいと思ったら、保険に加入する必要があると学んだ。
自分がやりたいボランティアがなくても受け入れられる心を持つことが必要だと思った。
- ◇ ボランティアセンターの流れが分かった。
被災地での実際にあった犯罪の話も参考になった。
- ◇ ボランティアを「仕分ける・素性を確認する」重要性がよく理解できた。
時間がかかるのはやむを得ない。
- ◇ 障害があっても、できるボランティアがあると思う。
- ◇ ニーズ受付は質問に答える形式なので、何が困って何をして欲しいかしっかり伝える経験ができた。
- ◇ ニーズ受付、昨年より効率的になった。番号札で順番や待ち時間の経過が分かる。
- ◇ 知的障害の人の参加が少ない。困ることがいっぱいあると思うのに。
- ◇ 校区の防災訓練で地元の民生委員さんが自宅から避難場所まで一緒に避難してくれた。
別室を用意してくれてありがたかった。他の避難所にもお願いしたい。(知的障害)
- ◇ 雨でも避難がしたかった。以前にした宿泊体験がまたしたい。
- ◇ プライベートノートという障害について記入するノートを活用したい。(障害当事者)
- ◇ 障害のある方が安心して過ごせる避難所について考え中。参考にしたい。(他市行政職員)
- ◇ 体験型のスペースや展示も多く防災対策の参考になった。10年継続は素晴らしい。
- ◇ 100円ショップで非常用持ち出し袋など準備できると知りました。
- ◇ 福祉避難所ということだったので、障害のある人や家族のみ避難できる場所だと思ったら、違うということで非常にがっかりした。健常者が一緒では当事者や家族は安心して過ごせません。もっと勉強してください。(初回参加者)
- ◇ AEDがどこにあるかわからない。早急に対処すべきである。

＜講演・初期消火訓練 アンケートより＞



- ◇ 「かかりつけ薬剤師」初めて知りました。
- ◇ 災害時要援護者はいるが、避難訓練など参加者が少ない。警報が出ても市民館への避難者はゼロに近い。対応に苦慮している。(民生委員)
- ◇ わかりやすくよかった。携帯で常備薬を写真に撮っておきます。
- ◇ お薬手帳の大切さ改めて身にしみました。周りの方にも伝えていきたい。
- ◇ 避難所に必ず薬剤師さんがいることがわかり、ありがたいと思いました。
- ◇ 親の既往歴も書いてメモを財布に入れておこうと思いました。
- ◇ 避難生活で、薬の種類や分量によって命に関わることがあると知った。



さくらピア避難所体験のあゆみ 2009～2018

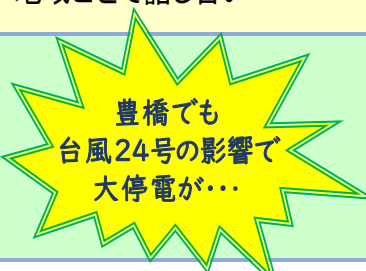
体育館で1泊2日

実施企画

2009 ①	東海豪雨被災体験 「こどもはダウン症、母は耳が聞こえない」 地震体験車 防災設備確認ラリー	プライベート間仕切り組み立て実演 防災グッズ紹介・豊橋市の避難所状況 障害者の防災を考えるグループワーク	
2010 ②	「阪神・淡路大震災、その時知的障害者は…」 地震体験車	防災紙芝居「おそろしい台風」 手作り防災グッズ紹介	
2011 ③	応急手当講習「三角巾の使い方」 はしご車 東日本大震災	そのとき 私たちは どう動くのか JDF(日本障害フォーラム)の活動からみえてきたもの 南三陸町視察報告	
2012 ④	「災害救助最前線」自衛隊講演 防災なるほどクイズ カレー炊き出し体験 九州北部豪雨	防災講話 夜の避難訓練	報告集『体験しよう備えよう 避難所体験の取組』発行
2013 ⑤	「逃げ遅れる人々」映画上映 バッククッキング 煙体験ハウス・地震体験車	ちょっと拝見みんなの非常持ち出し袋 夜の避難訓練	第18回防災まちづくり大賞 総務大臣賞
2014 ⑥	「地域防災と障害者」消防団講演 車いすダンスSHOW&逃げましょう 煙体験ハウス	防災ラジオドラマ作成 平成26年度防災ラジオドラマコンテスト 最優秀賞	平成26年度防災功労賞 内閣総理大臣賞
2015 ⑦	防災ラジオドラマに書ききれなかった思い 防災手話体験 関東・東北豪雨	防災レクリエーション 防災じゃんけん・新聞紙でスリッパ	
2016 ⑧	講演 あのときのこと 「気仙沼避難所運営38日間の生活」 熊本地震 防災教育チャレンジプラン 防災教育大賞	講演 これからのこと 「こども・障害者・高齢者の命を守る備え」 あそ防災 じゃんけん・釣りゲーム 防活ひろば・避難所GO!	

マンガ『障害者が避難所に来たら』発行

災害ボランティアと合同訓練

2017 ⑨	① 伝えて～避難・報告訓練 さくらピアからあイトピアへ 九州北部豪雨	② 地域で～ 避難所開設レイアウト実習	③ つながって 防活ミーティング 地域ごとで話し合い
2018 ⑩	① ハートを伝える 避難・報告訓練 大阪府北部地震 北海道胆振東部地震	② 備えを学ぶ 講演「災害時に役立つ薬の話」 西日本豪雨	 豊橋でも 台風24号の影響で 大停電が…

豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」で今月2日から16日まで、毎年恒例の「防災タイム2018」が設けられ、同館利用者が期間中に避難訓練を体験、館内の避難経路などを再確認した。

(田中博子)

避難経路や危険箇所確認

豊橋・さくらピア
館内の利用者
万 一 に 備 え 「 防 災 タ イ ム 」



さくらピアは豊橋障害者(児)団体連合協議会が運営。毎秋に「避難所体験」を大々的に実施しているほか、3年前からは9月に2週間「防災タイム」を設け、避難経路の安全について館職員が利用者とともに考える機会にしている。昨年は57団体延べ505人が参加。今年は15日間、1日3回実施し、期間中は昨年より多い60数団体延べ約670人が訓練に参加した。

訓練放送を受けた後、館の職員は誘導しないため、各階各部屋を使うグループは自分たちだけで避難経路を確認しながら同館前の桜ヶ丘公園に移動するというもの。事後にアンケート調

避難訓練を通して館利用者が避難経路を確認する「防災タイム」はさくらピアで

査をし、今後に生かしていくという取り組みだ。

気付いた点報告

今後に生かす

体育館で運動していた車イス利用者や階上の部

屋を使っていた白杖利用者ら、訓練に参加した人たちは、避難場所の公園に着くと、避難経路上にある壁の耐震についてやパトランプの設置場所・数、ドアノブの開け閉め、急いでいる際の段差の危険性についてなど、同館職員に訓練中に気付いたことや要望を伝えていた。「同様の取り組みが全市に広がっていけば」と本田栄子・同館事務長は話す。

平成 30 年 9 月 17 日(月)

東愛知新聞

災害に備えて知識深める

豊障連が豊橋市と「さくらピア」で 障害者や家族など避難所体験



災害ボランティアの受付を学ぶ参加者＝さくらピアで

体験しよう、備えよう。障害当事者や家族、ボランティア、地域住民らが防災に関する知識を深める「さくらピア」2018避難所体験が29日、同市障害者福祉会館「さくらピア」で開かれた。午前・午後の部に延べ約220人が参加し、講演や体験などで防災意識を高めた。

(田中博子)

同館指定管理者である「豊橋障害者」(児)団体の「豊橋障害者」(児)団体の山下徹会長)主催、豊橋市共催で、東愛知新聞社など後援。福祉避難所である同館で障害者や家族、行政・福祉関係者、近隣住民らが避難生活を検証する試みで、障害当事者主体の継続的な防災啓発事業の取り組みは全国でも高い評価を受けている。昨年から宿泊体験から1日体験に切り替え、取り組みを外に発信することにも力を入れている。

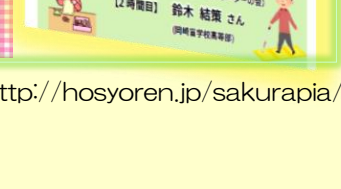
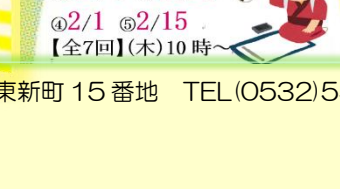
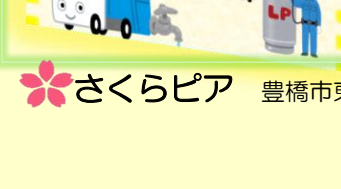
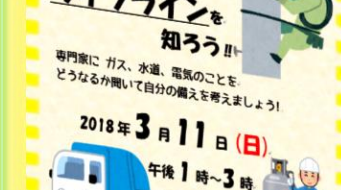
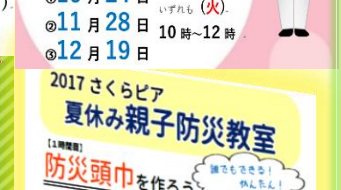
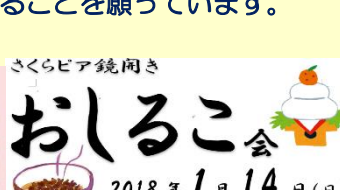
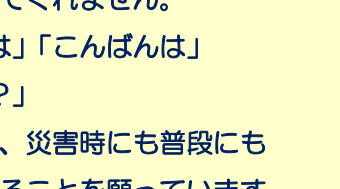
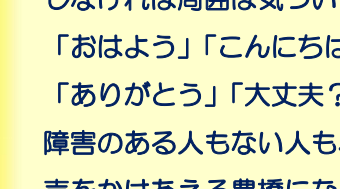
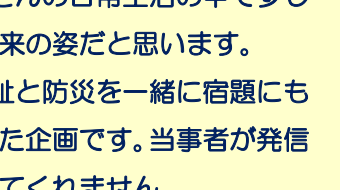
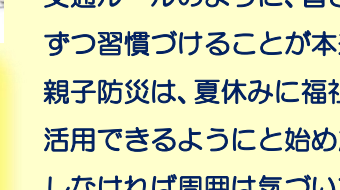
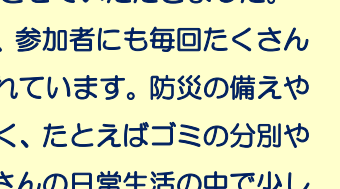
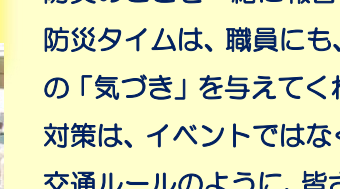
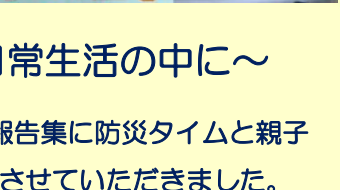
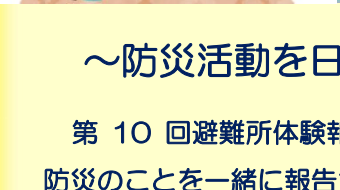
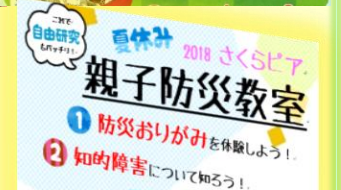
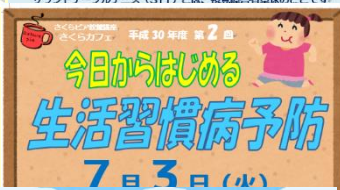
この日は悪天候のため、屋外のプログラムを中止。午前中は参加者が居住地域別に数班に分かれ、班ごとに体育館2階の避難経路確認を行った後、1階で障害者が「ニーズ受付」、一般参加者が「ボランティア受付」を体験した。社会福祉協議会職員や防災ボランティアコーディネーターらが説明や応対にあたり、障害者は支援を求めたいことを伝える練習、一般は災害ボランティアとして支援できることを伝える方法や登録の仕方などを勉強。受け入れ側のコーディネーターも本番さながらの応対の訓練として参加者に丁寧に説明を行っていた。

午後からは、昨年の参加者から要望が高かった医療分野での講演を実施。「災害時に役立つ薬の話」として、同市薬剤師会の中神由香・防災担当理事が「お薬手帳」や薬の保管、避難所で医療を受ける場合などについて説明した。

会場には段ボールベッドや100円ショップで揃えられる防災グッズなども展示、参加者に備えを呼び掛けたほか、非常食の配布、初期消火訓練なども行った。「最近はやっても同様の取り組みをすることが増えてきたと感じる。避難所体験に参加したことで地域の避難訓練にも参加する気持ちになった人もいる。それぞれが体験を持ち帰り、地域でつながりを作ってもらいたい」と本田栄子・さくらピア事務長は話す。

平成 30 年 9 月 30 日(日)

東愛知新聞



～防災活動を日常生活の中に～

第 10 回避難所体験報告集に防災タイムと親子防災のことを一緒に報告させていただきました。防災タイムは、職員にも、参加者にも毎回たくさんの「気づき」を与えています。防災の備えや対策は、イベントではなく、たとえばゴミの分別や交通ルールのように、皆さんの日常生活の中で少しずつ習慣づけることが本来の姿だと思います。親子防災は、夏休みに福祉と防災と一緒に宿題にも活用できるようにと始めた企画です。当事者が発信しなければ周囲は気づいてくれません。「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」「ありがとう」「大丈夫？」障害のある人もない人も、災害時にも普段にも声をかけあえる豊橋になることを願っています。

